

# 次世代へ平和の尊さを語り継ぐ

播磨町では昭和57年に「核兵器廃絶のまち宣言」を行っています。平和を祈念して今年も8月8日(金)～9日(土)に、長崎へ「播磨町平和特使」を派遣し、町内では講話会、映画会、平和展を催しました。

▼問い合わせ 企画グループ ☎079(435)0356

播磨中学校、播磨南中学校の両校から4人の生徒が、長崎市で開催された青少年ピースフォーラムと平和式典に出席しました。全国から集まった中学生と友に、平和についての意見交換と発表を行い、平和への思いを新たにしました。



## 中学生が「播磨町平和特使」として、ピースフォーラムに参加しました

### 『青少年ピースフォーラム』



播磨南中学校 阿部 一輝

長崎原爆犠牲者慰霊平和記念式典に参列しました。こういう行事に参加したことがなかったのでとても印象に残りました。

青少年ピースフォーラムでは、実際に被爆された方の体験講話を聴いたり、全国から集まった人たちと班になりお互いに原子爆弾について意見交換をしたりしました。出されたお題に関する自分の意見を紙に書き、自分の意見を発表しながら班ごとに一枚の画用紙に貼っていくというものでした。自分の思っていることと同じ意見もあれば、違った意見もあったのでとても盛り上がりました。二日目は前日には



### 平和祈念講話会・映画会・平和展ほか

#### 平和祈念講話会

8月1日(金)、中央公民館で「平和祈念講話会」が開催されました。今年も町内中学1年生と住民の方約350人が参加し、被爆体験を語り継ぐ活動をされている加古川市原爆被爆者の会から3人の講師を迎えての被爆体験のお話に耳を傾けました。最初に映画「人間をかえせ」を鑑賞し、会長の相良勝三郎さん、副会長の南澤弘さん、会員の小林愛子さんからそれぞれの被爆体験について話されました。  
「こんなことがあっても戦争は許されない、二度とこんな苦しく辛い思いはしたくないし、させたくない」と訴えられました。

#### 平和映画会

8月1日(金)、アニメ「アンゼラスの鐘」を中央公民館で上映しました。参加者の感想  
◆改めて、戦争の恐さを思い知らされた。平和な時代に生きているありがたさに感謝しなくてはと思う。「子どもを頼みます」と言っていて亡くなったお母さんの手が忘れられませんか。世界平和を願うばかりです。自分に何かできることがあればしていきたい。  
◆私5、6才でした。東の空が真っ赤に焼けるのを今でも思い出す。そんなころに広島、長崎で苦しんでいる人たちがいるとは思ってもしなかったが、いかにむごい戦争であったのか、映像でしか見ない私は平和のありがたさが身にしみました。

しゃべれなかった人とも友達になり、うれしかったです。

長崎の人たちは、原爆被爆都市の使命として「長崎は最後の被爆地でならなければならない」と、核兵器の脅威や恐ろしさを世界中に訴え続けています。僕も核兵器のない平和な世界になるよう祈り続けていきたいです。

### 『長崎、ありがとう』



播磨南中学校 井谷 真美

青少年ピースフォーラムに参加し、とても腹が立った話があります。吉田勝二さんの被爆体験のお話です。13歳の少年が、なぜ差別を受けなければならぬの。なぜこんなに辛い思いをしなければならないの。本当に腹が立ちました。

現在も核兵器を作り核実験をしている国が、いくつかあります。原爆資料館で核実験をしているときの映像を見ました。信じたくありませんでした。こんな無意味なことをしているということ。

ピースフォーラムの意見交換で、私の平和宣言文を紹介します。「私たちはけんかをしないために、相手の立場を理解する。自分の意見はかり言

### 『ピースフォーラムの感想』



播磨中学校 宇井 茜音

わかない。思いやりの心を持つ。自分がされていやな事はしない。以上の事を守る事をここに宣言します」私はけんかをしないため、これからこの4つを守っていききたいと思います。

被爆体験をされた吉田勝二さんにお話していただきました。吉田さんは、爆心地より80mの路上で被爆し40歳で吹き飛ばされたそうです。「63年たった今、何で戦争をしたのか...」と思ったが、戦争を恨んでも人を恨んではいけない」と考えるようになったそうです。そして、平和の原点は人の痛みが分かる心を持つこと...ということも教えていただきました。

次に、班に分かれてボランティアの方や外の中学校の人たちと一緒に原爆について学習し、意見交換をして平和宣言文を作りました。それは、いじめのない世界をつくるために相手の気持ちを考えて、いい所を見つけ、みんなが笑顔です。この事を世界のみんなが守れば、戦争なんて起きないと結論が出ました。  
私たちには、未来に平和の尊さを伝

### 『ピースフォーラムに参加して』



播磨中学校 多木 春香

えていかなければならない義務があります。私もこれから、伝えていこうと思います。

今年で63周年を迎える今でも、原爆症や白血病やひどいやけどなどのいろいろな病気やけがで苦しんでいる人たちがいるということ、それによっておこる貧困や差別などさらに苦しんで、心も体も深く傷付いていることを学びました。二度と戦争をしてはいけない、核兵器を世界に存在させてはいけないと思いました。

お話ししてくださる被爆した人たちは悪魔の原子爆弾を思い出すのが、こわい、つらい、苦しいなどの思いがあったり、今の若者には、この苦しみなんかわからないだろうという思いがあるのです。そこで、なかなか実際に話を聞くことがなくなってきたので、私は、被爆者のお話で聞いたことを、伝えていかなければならないと思いました。「戦争は勝ちも負けもない。あるのは滅びだけである」この言葉が心の中に残りました。